



# ワシントンD.C.の相乗効果

最終更新日: 2025年12月17日

自動翻訳

これらの資料は、翻訳ソフトウェアを使用してお客様の便宜のために翻訳されています。正確な翻訳をご提供できるよう相当な努力を払っておりますが、いかなる自動翻訳も人間の翻訳者に代わることはなく、そのようなことは意図されておりません。翻訳は「現状のまま」提供されています。他言語への翻訳の的確性、信頼性または正確性については、明示または黙示を問わず、いかなる保証も行われません。翻訳ソフトには限界があるため、一部のコンテンツが正確に翻訳されていない場合があります。これらの資料の公用言語は英語です。翻訳の際に生じる相違または不一致は、コンプライアンスまたは履行の目的に関しては拘束力を有さず、法的効力はないものとします。

ここで示したいくつかの例と図は、説明の目的でのみ提供されています。ServiceNow 製品またはサービスへの実際の関連付けやつながりは意図されておらず、推測されるものではありません。

ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の商標または登録商標です。その他の会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標です。

下記の ServiceNow ウェブサイト利用規約をお読みください。 [www.servicenow.com/terms-of-use.html](http://www.servicenow.com/terms-of-use.html)

本社  
2225 Lawson Lane  
Santa Clara, CA 95054  
United States  
(408) 501-8550

# 目次

ソリューション.....	4
高度なプロジェクトリスクアセスメントにより、組織のリスクエクスポージャーの可視性を向上させる.....	4
を使用したサービスと運用の自動化と最適化 サービスオペレーションワークスペース.....	7
を使用して、IT 資産 ハードウェア資産管理 のパフォーマンスを追跡します。 持続可能な IT.....	12
オンボーディングプロセス中にサプライヤーを評価することでリスクを最小限に抑える.....	14
テクノロジーリスク、技術的負債、アプリケーションコストを削減.....	19
[store-future: BEGIN review]	
[End]	

# ソリューション

ソリューションでは、アプリケーションを相互に組み合わせて使用することで、アプリケーションの機能 ServiceNow を拡張します。

## 利用可能なソリューション

各ソリューションの利点と、それらを実装および使用方法の詳細をご覧ください。

## 高度なプロジェクトリスクアセスメントにより、組織のリスクエクスポージャーの可視性を向上させる

プロジェクトの高度なリスクアセスメントを使用すると、プロジェクトが組織に潜在的なリスクをもたらすかどうかを簡単に特定し、軽減措置を迅速に決定できます。プロジェクトリスク管理とエンタープライズリスク管理を組み合わせ、組織の全体的なリスクエクスポージャーの可視性を向上させます。

と統合プロジェクトポートフォリオ管理する利点の組み合わせ 高度なリスク

機能	プロジェクトポートフォリオ管理	高度なリスク	両方のアプリケーションの連携
プロジェクトリスクアセスメント	✓	✗	✓
エンタープライズリスクへの昇格	✗	✗	✓
固有リスクと残存リスクの評価	✓	✓	✓
統合されたプロジェクトおよびエンタープライズリスク登録	✗	✗	✓
リスクヒートマップ	✗	✓	✓

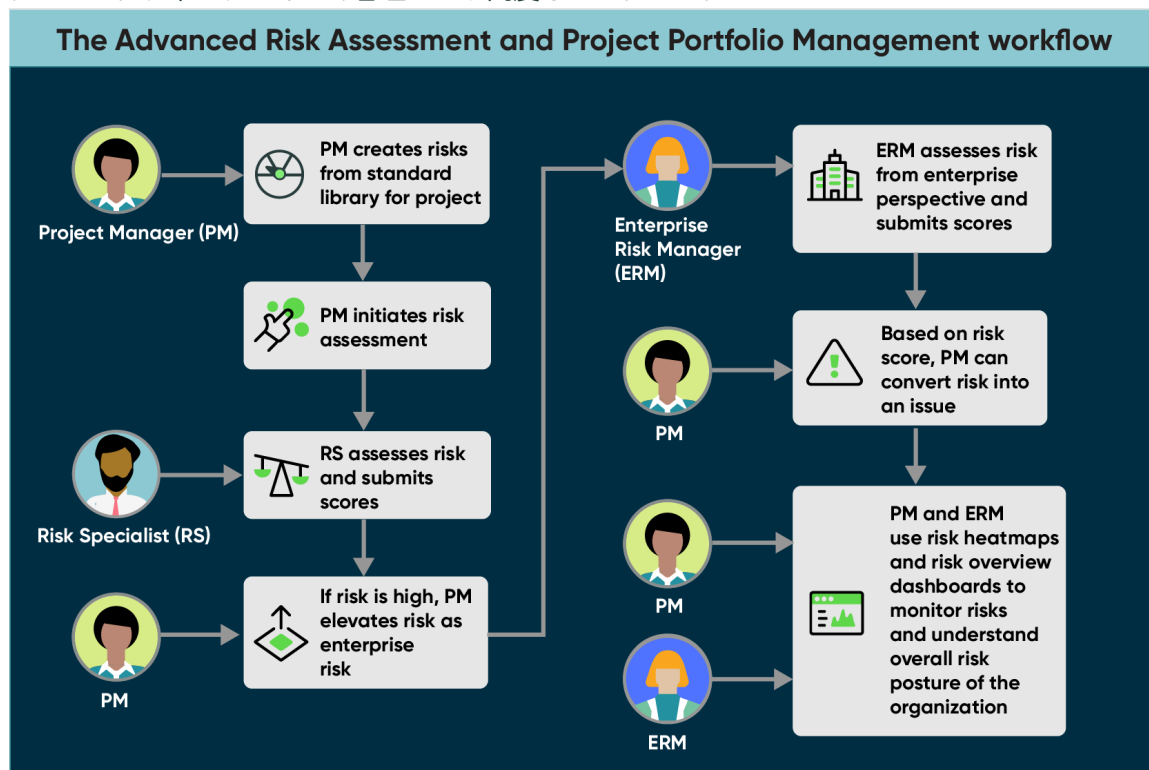
機能	プロジェクトポートフォリオ管理	高度なリスク	両方のアプリケーションの連携
エンタープライズプロジェクトリスク概要ダッシュボード			

### 高度なプロジェクトリスクアセスメントのワークフロー

(PPM) と高度なリスクアセスメント (ARA) を一緒に使用するプロジェクトポートフォリオ管理と、次のようなメリットが得られます。

- 組織レベルでリスクエクスポージャーを監視する
- プロジェクトとエンタープライズの両方のリスクチームのリスク管理システムを統合します。

次の図は、プロジェクトマネージャー、リスクスペシャリスト、およびエンタープライズリスクマネージャーがアプリケーションを一緒に使用して、プロジェクトレベルとエンタープライズレベルの両方でリスクを評価および軽減する方法のワークフローの例を示しています。



このワークフローの場合：

1. プロジェクトマネージャーは、プロジェクトの標準ライブラリからリスクを作成し、リスクアセスメントを開始します。
2. リスクスペシャリストがリスクを評価し、アセスメントスコアを付与します。
3. リスクスコアが高い場合、プロジェクトマネージャーはリスクをエンタープライズリスクとして昇格させます。
4. エンタープライズリスクマネージャーは、エンタープライズの観点からリスクを評価し、アセスメントスコアを付与します。
5. リスクスコアに基づいて、プロジェクトマネージャーはリスクを問題に変換できます。
6. プロジェクトマネージャーとエンタープライズリスクマネージャーは、リスクヒートマップとリスク概要ダッシュボードを使用してリスクを監視し、組織の全体的なリスク体制を把握します。

### 統合の要件プロジェクトポートフォリオ管理と高度なリスク

1. Project Portfolio Management プラグイン [com.snc.financial\_planning\_pmo] を有効にします。
2. から GRC: Advanced Risk アプリケーションをインストールします ServiceNow Store。

### 高度なプロジェクトリスクアセスメントを開始する

プロジェクトのリスクの評価を開始するには、次の手順に従います。

1. リスクアセスメント方法論をセットアップおよび構成します。「Project Portfolio Management および Advanced Risk 統合の構成」を参照してください。

ロール:sn\_risk.admin

2. スコープを定義し、リスクアセスメントを開始します。「プロジェクトのリスクの追加」を参照してください。

ロール:it\_project\_manager。

3. リスクアセスメントを実行します。「リスクアセスメントの実行」を参照してください。

ロール:sn\_grc.business\_user

4. プロジェクトリスクを評価して昇格します。「プロジェクトリスクをエンタープライズリスクに昇格する」を参照してください。

ロール:it\_project\_manager。

5. リスクを問題に変換し、セキュリティ体制を監視します。「リスク体制の監視」を参照してください。

ロール:sn\_risk.admin、 it\_project\_manager。

## を使用したサービスと運用の自動化と最適化 サービスオペレーションワークスペース

コストを削減し、高品質のカスタマーエクスペリエンスと従業員エクスペリエンスを提供し、運用レジリエンスを高めながら、サービスを拡張できます。インシデント、問題、変更などの IT プロセスを、検出、ビジネスサービス定義、Service Mapping、イベント管理などの IT 運用と統合する単一のクラウドプラットフォームを使用します。


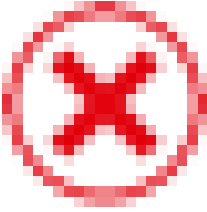


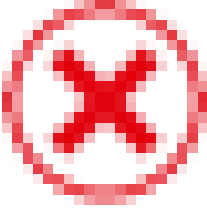


### (ITSM)とIT Operations Management (ITOM)(ITOM)の統合IT Service Managementのサービスオペレーションワークスペース複合的な利点

#### Benefits with Service Operations Workspace for ITSM and ITOM

- Provides a unified experience for services and operations
- Eliminates silos by connecting services and operations teams
- Creates and extends processes using low-code configuration
- Increases productivity and keeps employees engaged
- Optimizes processes for faster resolution of outages and incidents

機能	ITSM 用の サービスオペレーションワークスペース	ITOM 用の サービスオペレーションワークスペース	すべてのアプリケーションをまとめて
シンプルで直感的で明瞭なユーザーインターフェイス (UI)	✓	✓	✓

機能	ITSM用のサービスオペレーションワークスペース	ITOM用のサービスオペレーションワークスペース	すべてのアプリケーションをまとめて
ユーザーアクションに基づく自動推奨	✓	✓	✓
タスクの概要を提供するカスタマイズされたランディングページ	✓	✓	✓
サービスデスクエージェントの効果的なインシデント管理	✓	✗	✓
優先度の高いタスクのために待機しているエキスパート	✓	✗	✓
ログインユーザーのオンボーディングエクスペリエンス	✓	✓	✓
Walk-up Experience	✓	✗	✓
インシデントとインタラクションからの要求管理	✓	✗	✓
の初期構成のガイド付きエクスペリエンス サービスオペレーションワークスペース	✓	✗	✓

機能	ITSM用のサービスオペレーションワークスペース	ITOM用のサービスオペレーションワークスペース	すべてのアプリケーションをまとめて
関連する測定基準、ログ、および追加情報を含むサービスの完全なコンテキストの表示			
サービスのアラートの迅速な修復			
アラートフォーム内に埋め込まれた Playbook Experience を使用する場合のオペレーターの迅速な自動化			

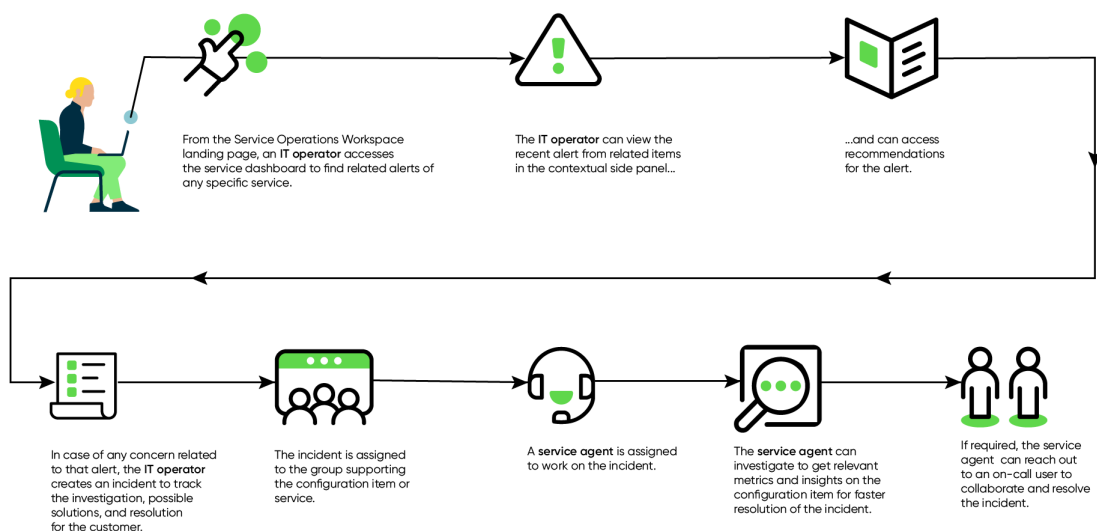
### サービスオペレーションワークスペースのワークフロー

for (IT Service Management)ITSM) と IT Operations Management (ITOM) (ITOM) を一緒に使用するサービスオペレーションワークスペースと、次のような利点があります。

- 単一のプラットフォームでサービスと運用の統一されたエクスペリエンスを提供します。
- サービスチームと運用チームをつなぐことでサイロ化を解消します。
- 生産性を向上させ、従業員のエンゲージメントを維持します。
- ローコード構成で AND ITOM プロセスを作成および拡張ITSMします。
- ITSMインシデントと機能停止をより迅速に解決するための最適化とITOMプロセス。

次の図は、IT オペレーターとサービスエージェント (サービスデスクエージェントまたは L2/L3 スペシャリスト) がこれらのアプリケーションを使用して顧客の問題を解決する方法を示すワークフローの例を示しています。

サービスオペレーションワークスペースITOMとITSMワークフロー



このワークフローの場合：

1. サービスオペレーションワークスペースランディングページから、IT オペレーターはサービスダッシュボードにアクセスして、特定のサービスの関連するアラートを見つけます。
2. IT オペレーターは、コンテキストサイドパネルの関連アイテムから最新のアラートを表示できます。
3. IT オペレーターは、アラートの推奨事項にアクセスできます。
4. そのアラートに関連する顧客の問題がある場合、IT オペレーターはインシデントを作成して、顧客の調査、考えられるソリューション、および解決策を追跡します。
5. インシデントは、構成アイテムまたはサービスをサポートするグループにアサインされます。
6. インシデントを処理するために、サービスデスクエージェントや L2/L3 スペシャリストなどのサービスエージェントがアサインされます。
7. サービスエージェントは、インシデントをより迅速に解決するために、構成アイテムを調査して関連する測定基準とインサイトを得ることができます。
8. 必要に応じて、サービスエージェントはオンコールユーザーに連絡し、共同作業してインシデントを解決することができます。

## の統合の要件 サービスオペレーションワークスペースとITSMITOM

1. についてITSM、次の条件が満たされサービスオペレーションワークスペースていることを確認します。
  - a. アプリケーションの標準ライセンス以降を調達し ITSM ます ServiceNow IT Service Management 。ServiceNowアカウントマネージャーまたは営業担当者にお問い合わせください。
  - b. for 内でサービスオペレーションワークスペースITSM調査フレームワークを使用する場合は、アプリケーションの Professional ライセンス以降ServiceNow IT Service Managementを調達しますITSM。
  - c. からアプリケーションをインストールし サービスオペレーションワークスペース ITSM ます ServiceNow Store。このアプリケーションのインストールの詳細については、「[Service Operations Workspace ITSM アプリケーションのインストール](#)」を参照してください。
2. についてITOM、次の条件が満たされサービスオペレーションワークスペースていることを確認します。
  - a. アプリケーションの Professional ライセンス以降を調達し ITOM ます ServiceNow IT Operations Management (ITOM) 。ServiceNowアカウントマネージャーまたは営業担当者にお問い合わせください。
  - b. からアプリケーションをインストールし サービスオペレーションワークスペース ITOM ます ServiceNow Store。このアプリケーションのインストールに関する詳細については、「[Service Operations Workspace for ITOM Applications のインストール](#)」を参照してください。

### サービスオペレーションワークスペース for ITSM とを開始するにはITOM

for ITSM と ITOMの使用を開始するサービスオペレーションワークスペースには、次の手順に従います。

1. サービスオペレーションワークスペースの構成。ITSM
  - a. 用にセットアップしますサービスオペレーションワークスペースITSM。「[Service Operations Workspace for ITSM の設定](#)」を参照してください。  
 ロール：admin。
  - b. 調査フレームワークを設定します。「[Service Operations Workspace での調査フレームワークの設定](#)」を参照してください。  
 ロール：admin。
  - c. インシデントの推奨フレームワークを構成します。「[Service Operations Workspace for ITSM の推奨フレームワークの構成](#)」を参照してください。  
 ロール：admin。
2. サービスオペレーションワークスペースの構成。ITOM
  - a. 用にセットアップしますサービスオペレーションワークスペースITOM。「[Service Operations Workspace for ITOM の設定](#)」を参照してください。  
 ロール:evt\_mgmt\_operator。
  - b. アラート測定基準を設定します。「[アラートメトリクスの設定](#)」を参照してください。  
 ロール:evt\_mgmt\_operator。

- c. アラートの推奨フレームワークを設定します。「[Service Operations Workspace for ITOM の推奨フレームワークの構成](#)」を参照してください。

ロール:evt\_mgmt\_admin。

- d. サービスオペレーションワークスペース受信ボックスを設定します。「[Service Operations Workspace for ITOM の受信ボックスの構成](#)」を参照してください。

ロール:evt\_mgmt\_admin。

- e. リストをカスタマイズ サービスオペレーションワークスペース します。「[Service Operations Workspace for ITOM のリストのカスタマイズ](#)」を参照してください。

ロール:itil。

## を使用して、IT 資産 ハードウェア資産管理 のパフォーマンスを追跡します。 持続可能な IT

この 持続可能な IT アプリケーションを使用すると、ハードウェア資産によって生成された排出量を効果的に管理および監視できます。さらに、資産のエネルギー消費量と、資産が寿命に達した後の適切な廃棄を追跡できます。

と **ESG Management**の統合の利点ハードウェア資産管理を組み合わせたもの持続可能な IT

機能	ハードウェア資産管理	ESG Management	すべてのアプリケーションをまとめて
ハードウェア資産インベントリ管理	✓	✗	✓
ハードウェア資産のエネルギー消費と排出量を推定する	✗	✓	✓
ハードウェア資産ライフサイクルトラッキング	✓	✗	✓

機能	ハードウェア資産管理	ESG Management	すべてのアプリケーションをまとめて
電子廃棄物の削減を報告する			
ポートフォリオ内の Energy Star 認定資産の割合を増やす			
データセンターのエネルギー消費、炭素排出量、再生可能エネルギーを追跡する			
ターゲットを絞った改善のために、各場所から PUE、WUE、CUEを監視します			
関連するすべての持続可能な IT 測定基準を一目で追跡			

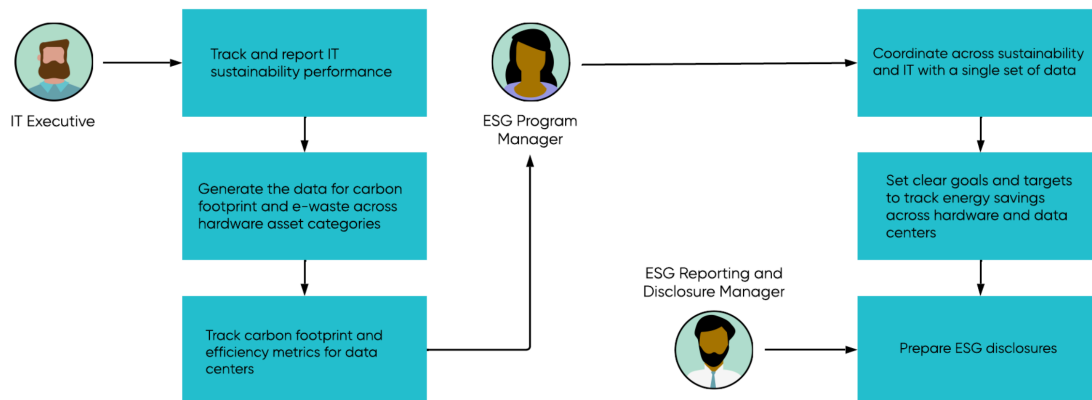
### とを使用するハードウェア資産管理のためのワークフロー 持続可能な IT

と持続可能な ITアプリケーションと一緒に使用するハードウェア資産管理と、次のようなメリットがあります。

- ハードウェア資産によって生成された排出量を効果的に管理および監視できます
- 資産のエネルギー消費量と、資産が寿命に達した後の適切な廃棄を追跡するのに役立ちます。
- ダッシュボードを通じて貴重なインサイトを提供し、これらの資産を廃止するか再利用するかについて情報に基づいた意思決定を行うことができますようにします

この図は、カーボンフットプリントと電子廃棄物に関するデータを収集する際の IT 担当役員とサステナビリティプログラマナーの共同作業を示しています。ESGプログラム責任者は、目標・目標を設定し、省エネ施策の有効性をモニタリングし、開示を行います。

## ハードウェア資産管理および持続可能な IT ワークフロー



このワークフローの場合：

1. IT 担当役員は、Asset Executive Workspace にログインして、IT の持続可能性のパフォーマンスを追跡および報告します。
2. 次に、IT 担当役員は、さまざまなハードウェア資産カテゴリで生成されたカーボンフットプリントと電子廃棄物を取得し、データセンターのカーボンフットプリントと効率の測定基準を追跡します。
3. ESG プログラムマネージャーは、単一の共有データセットを使用して、持続可能性と IT の間を調整します。
4. ESG プログラムマネージャーは、省エネ対策の有効性を監視するための目標とターゲットを設定し、ESG 報告および開示マネージャーが開示を準備するのを支援します。
5. ESG レポートおよび開示マネージャーが ESG 開示を準備します。

### ハードウェア資産管理と **ESG Management** を統合するための要件

1. (sn\_esp\_sustain) プラグインをインストールして有効にします 持続可能な IT 。
2. (sn\_hamp) プラグインをインストールして有効にします ハードウェア資産管理 。

### IT 持続可能な IT 資産からの排出量データの追跡の使用を開始する

次のタスクを完了して開始 持続可能な IT します。

1. [Activate the Sustainable IT plugin](#) 。
2. [持続可能な IT 測定基準の定義をフィルタリングして有効にします](#) 。
3. [Create new entities for data centers](#) 。
4. [Manually set up entities for Sustainable IT data centers](#) 。
5. [Configure Sustainable IT](#) 。

## オンボーディングプロセス中にサプライヤーを評価することでリスクを最小限に抑える

のリスクアセスメント統合を使用すると サプライヤーライフサイクルオペレーション、新しいサプライヤーをオンボーディングするときに潜在的なサプライヤーリスクを特定して評価できます。

と統合 サプライヤーライフサイクルオペレーションする利点の組み合わせ サードパーティリスク管理

機能	サプライヤーライフサイクルオペレーション	サードパーティリスク管理	すべてのアプリケーションをまとめて
サプライヤーオンボーディング	✓	✗	✓
情報・データ管理	✓	✗	✓
ケースおよび異議申し立ての管理	✓	✗	✓
リスクオンボーディング	✗	✓	✓
サードパーティリスクデューデリジェンス、外部および内部リスクアセスメント	✗	✓	✓
リスクインテリジェンス	✗	✓	✓

自動翻訳

機能	サプライヤーライフサイクルオペレーション	サードパーティリスク管理	すべてのアプリケーションをまとめて
リスクスコアリングと監視			
リスク担当役員ダッシュボード			

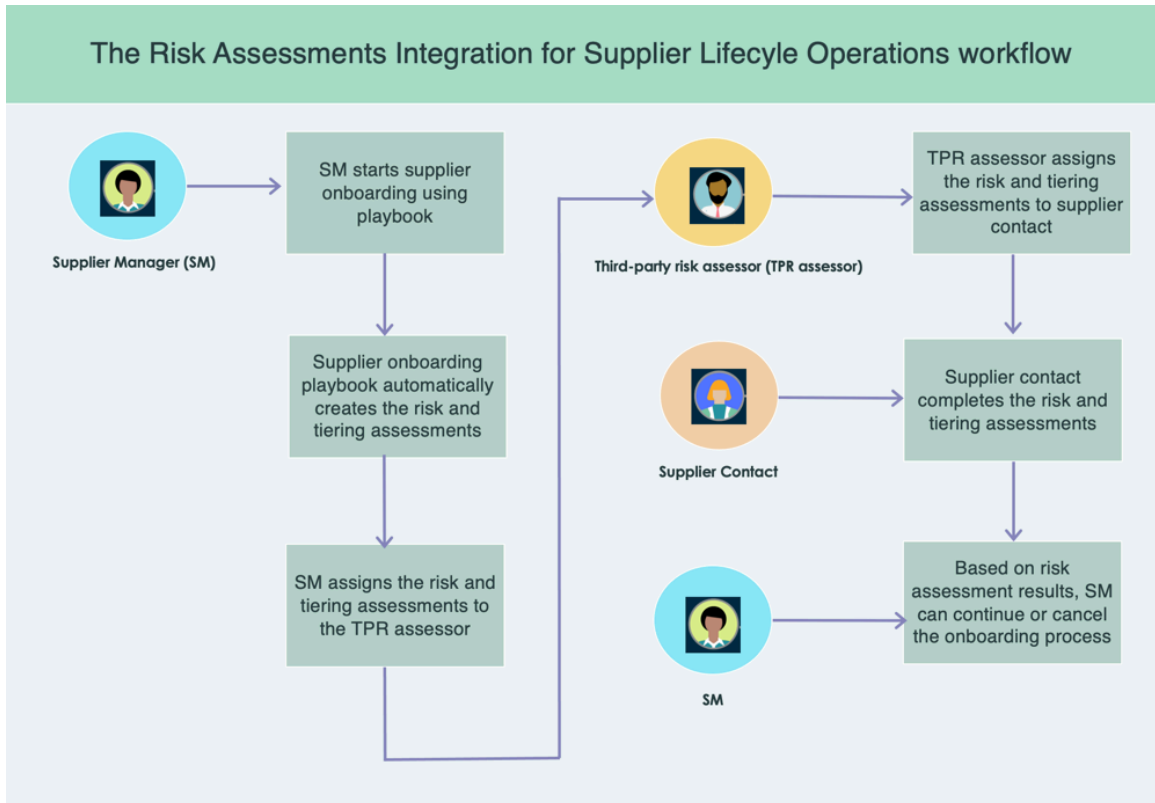
### のリスクアセスメント統合のワークフロー サプライヤーライフサイクルオペレーション

とサードパーティリスク管理組み合わせて使用するサプライヤーライフサイクルオペレーションと、次のようなメリットがあります。

- サプライヤーオンボーディング時のサプライヤーリスクの評価
- リスクスコアを分析して、サプライヤーをオンボーディングするかどうかを決定します

次の図は、サプライヤーマネージャーとサードパーティリスク (TPR) 査定人がアプリケーションを一緒に使用してサプライヤーリスクを評価する方法のワークフローの例を示しています。

サプライヤーライフサイクルオペレーションおよびサードパーティリスク管理ワークフロー



**注:**

Vancouver リリースでは、Vendor Risk Management (VRM) アプリケーションの名前が (TPRM) にサードパーティリスク管理変更されました。VRM アプリケーションのライセンスが付与されなくなりました。ただし、インストールした既存のユーザーは、引き続きこのワークフロー サプライヤーライフサイクルオペレーション VRM を使用して統合し、サプライヤーリスクおよび階層アセスメントを実施できます。

このワークフローの場合：

1. サプライヤーマネージャーは、サプライヤーオンボーディング要求を受け取ります。
2. サプライヤーマネージャーは、オンボーディング Playbook を使用します。この Playbook は、サプライヤーをオンボーディングするための簡素化されたガイド付きプロセスを提供します。詳細については、「[Using the supplier onboarding playbook to onboard suppliers](#)」を参照してください。
3. オンボーディングプロセス中に、Playbook によってリスクと階層のアセスメントが自動的に作成されます。

リスクアセスメントの実行は、サプライヤーのオンボーディングの重要な側面です。サプライヤーリスクアセスメントは、サードパーティリスク (TPR) 査定人によって行われます。詳細については、「[Supplier Lifecycle Operations のリスクアセスメント統合の開始](#)」を参照してください。

4. サプライヤーマネージャーは、リスクアセスメントと階層アセスメントをサードパーティリスク査定人にアサインします。
5. TPR 査定人は、アセスメントをサプライヤーの主要連絡先に送信します。
6. サプライヤー担当者がログイン Supplier Collaboration Portal し、リスクと階層のアセスメントを完了します。
7. リスクアセスメントが完了した後、サプライヤーマネージャーはリスク情報を他のシステムと組み合わせで使用し、オンボーディングプロセスを続行するかキャンセルするかを決定できます。

## サプライヤーライフサイクルオペレーションとサードパーティリスク管理を統合するための要件

1. サプライヤーライフサイクルオペレーション アプリケーションを ServiceNow Store からインストールします。詳細については、「[Install Supplier Lifecycle Operations](#)」を参照してください。
2. サードパーティリスク管理 アプリケーションを ServiceNow Store からインストールします。詳細については、「[Configuring Third-party Risk Management](#)」を参照してください。

### のリスクアセスメント統合の開始 サプライヤーライフサイクルオペレーション

次のタスクを完了して、リスクアセスメント統合 サプライヤーライフサイクルオペレーション を開始します。

1. サプライヤーを作成します。詳細については、「[Create a supplier from the Source-to-Pay Workspace](#)」を参照してください。
2. Playbook を使用して新しいサプライヤーをオンボーディングします。詳細については、「[Using the supplier onboarding playbook to onboard suppliers](#)」を参照してください。

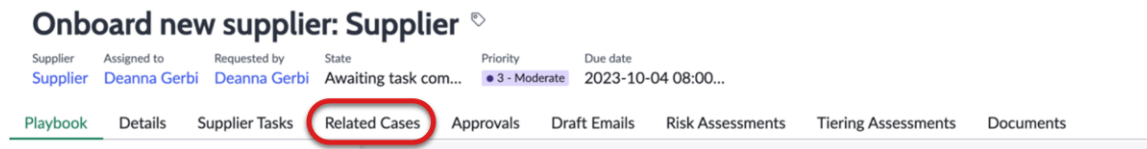
をインストールしたかどうか サードパーティリスク管理に応じて、Playbook は次のことを行いません。

- をインストールし サードパーティリスク管理している場合、Playbook はリスクおよび階層アセスメントレコードを作成します。リスクと階層アセスメントレコードは、それぞれ [ リスクアセスメント ] タブと [ 階層アセスメント ] タブにも一覧表示されます。サプライヤーオーナーまたはサプライヤーマネージャーは、これらのレコードを TPR 査定人にアサインします。

The screenshot displays the 'Onboard new supplier: Supplier' page in ServiceNow. The 'Supplier onboarding' section on the left lists several tasks, with 'Show Risk Assessment record' circled in red. The 'Risk Assessments' tab is selected, showing a 'Show Risk Assessment record' modal. The modal displays a record for 'Risk assessment for Supplier' in the 'Draft' state, with buttons for 'Mark Complete', 'Open List', and 'Skip'.

- をインストールし サードパーティリスク管理していない場合、Playbook は [ リスクアセスメント ] および [ 階層アセスメント ] タイプのサプライヤーケースを作成します。[ サプライヤーリスクアセスメント ] ケースと [ サプライヤー階層化アセスメント ] ケースは、親の [ サプライヤーのオンボーディング ] ケースの子ケースであり、[ 関連ケース ] タブに表示されます。サプライ

ヤーオーナーまたはサプライヤーマネージャーは、これらのアセスメントケースを TPR 査定人にアサインします。



3. サプライヤー担当者は、にログインし Supplier Collaboration Portal でリスクアセスメントと階層アセスメントを完了することができます。詳細については、「[Complete a risk assessment from the Supplier Collaboration Portal](#)」を参照してください。
4. サプライヤーマネージャーは、アセスメント結果データを他のデータと組み合わせて使用することで、オンボーディングプロセスを続行するかキャンセルするかを決定できます。

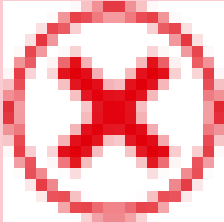
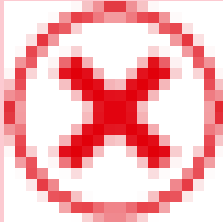

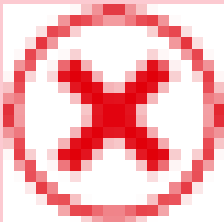

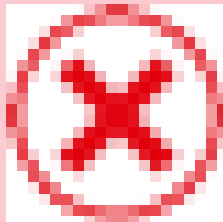
[store-future: BEGIN review]

## テクノロジーリスク、技術的負債、アプリケーションコストを削減

、および を使用して、アプリケーションポートフォリオを分析し、更新サイクルを管理し、レガシーアプリケーションをエンタープライズアーキテクチャワークスペースIT Asset Management 合理化します Information Technology Operations Management

とIT Asset Managementの統合エンタープライズアーキテクチャワークスペースの複合的なメリットIT Operations Management (ITOM)

機能	EA ワークスペース	ITAM	ITOM	すべてのアプリケーションをまとめて
構成アイテム (CI) の検出			ソフトウェアとハードウェアのインベントリの検出	ITOM Discovery は、ビジネスアプリケーションやアプリケーションサービスを含むハードウェアとソフトウェアの構成アイテムを識別して CMDB に追加します。  Discovery は、ソフトウェアとハードウェアの最新のインベントリを提供します。APM を使用すると、アプリケーションインベントリを完全に可視化できます。

機能	EA ワークスペース	ITAM	ITOM	すべてのアプリケーションをまとめて
サービスマッピング			 インフラストラクチャをビジネス機能にマッピングします。	Service Mapping は、アプリケーションインスタンスと検出されたインフラストラクチャの間の関係を提供します。Service Mapping は、アプリケーション (本番、開発、およびテスト環境のアプリケーションインスタンスまたはアプリケーションサービス) をサポートする検出された CI に基づいて、ビジネスサービスコンテキストの依存関係を作成します。
標準化されたソフトウェアおよびハードウェア製品モデルのライフサイクルコンテンツ				Software Asset Management (SAM) は、アプリケーションサービスをサポートするソフトウェアモデルの正規化されたインベントリを構築します。APM のテクノロジーポートフォリオ管理 (TPM) は、SAM ソフトウェアインベントリを使用してベンダーライフサイクルを管理します。

機能	EA ワークスペース	ITAM	ITOM	すべてのアプリケーションをまとめて
				ドウェアに依存して技術的なリスクにさらされているビジネスアプリケーションを事前に特定します。

- APMは、この機能を活用して、ビジネスアプリケーションに関連するリスク(可用性の損失など)を可視化し、アプリケーションの規制への準拠をテストするために適用されたコントロールを追跡します。- 継続的なコンプライアンス監視により、これらのアプリケーションが適切なコントロールに対して証明されていることを確認します。そのため、ビジネスアプリケーションの運用レジリエンスを確保することができます。- 攻撃の頻度とレベルが上昇し続ける中、組織は大量のセキュリティアラートに圧倒され、脅威の優先順位付けと迅速な解決が困難になる可能性があります。

### のワークフロー エンタープライズアーキテクチャワークスペース

エンタープライズアーキテクチャワークスペースと IT Asset Management とをIT Operations Management (ITOM)と一緒に使用すると、次のようなメリットがあります。

- エンタープライズアーキテクトが、基盤となるテクノロジーのバージョンとライフサイクルの追跡を自動化し、期限切れまたは提供終了したテクノロジーが原因でリスクにさらされているビジネスアプリケーションを特定できるようにします。
- アプリケーションインベントリの可視性の向上。冗長なアプリケーションや旧式のアプリケーションを見つけ出し、それに応じて迅速な決定を下します。
- アクション可能なワークフローを推進して、使用されなくなったライセンスへの過剰な支出を阻止します。

### 、IT Asset Management、およびの要件エンタープライズアーキテクチャワークスペースIT Operations Management (ITOM)

- (sn\_apm\_ws) アプリケーションをインストールします エンタープライズアーキテクチャワークスペース。
- (sn\_apm\_tpm) アプリケーションをインストールします テクノロジーポートフォリオ管理。
- (com.sn\_samp\_master) アプリケーションをインストールします ソフトウェア資産管理プロ。
- (com.sn\_hamp) アプリケーションをインストールします ハードウェア資産管理。

### 企業の技術リスク評価の概要

技術リスクの評価を開始するには、次の手順に従います。

1. ビジネスアプリケーションのテクノロジーを戦略的なビジネスイニシアチブに合わせて調整します。ジョブスケジュールを実行して、技術ポートフォリオの技術ライフサイクルデータをフェッチできます。「[Run a scheduled job to generate TPM lifecycle data](#)」を参照してください。
2. の EA ワークスペース[インサイト] セクションの [技術ポートフォリオ] タブで、ビジネスアプリケーション、アプリケーションサービス、サーバー、ソフトウェア製品、およびハードウェアモデルの技術ライフサイクルリスクを表示します。これらのテクノロジーライフサイクルリスクをフィルタリングして、関心のあるアプリケーションのみを表示できます。「[Viewing insights of your portfolio](#)」を参照してください。
3. TPM 検出済みテクノロジーの実行ログ [sn\_apm\_tpm\_discovered\_technology\_run\_log] テーブルを調べて、(TPM) 分析の テクノロジーポートフォリオ管理 進行状況を追跡します。分析

が実行されるたびに、このテーブルにエントリが追加されます。実行ログを表示するには、EA Workspace で ポートフォリオリストビュー (EA Workspace > [ポートフォリオ] > [技術ポートフォリオ管理] > ログ) に移動します。「[Portfolio list view](#)」を参照してください。

4. ビジネスアプリケーションを合理化して、複数のスコアに基づいてビジネスアプリケーションを分析し、ビジネスアプリケーションのデマンドを作成し、ビジネスアプリケーションの計画された処分を設定し、既存のビジネスアプリケーションにライフサイクルの詳細を追加します。「[Rationalization of business applications](#)」を参照してください。

[End]